

クラシックバレエにおけるダンサーの 自己愛に関する研究

大浦朱生（東海大学大学院）

I. 序論

近年青年の人格特性の一つとして、自己愛傾向が注目されている。Kernberg は、自己愛を精神的に捉え、自己愛パーソナリティ障害者の特徴として、「誇大感」「過度の自己陶醉」「過度な賞賛欲求」などを挙げており、社会問題との関連について多くの研究が行われてきた。Raskin & Terry は、自己愛を健常者にも起こりうるパーソナリティであると捉え、自己愛傾向を測定する尺度を作成した。日本においては、重藤らがスポーツ競技者や実施者は自己愛傾向が高いことを指摘している。しかし、種目別などの詳細な検討はなされていない。そこで本研究は、クラシックバレエ（以下、バレエ）ダンサー用の自己愛傾向を測定する新たな尺度の作成、自己愛傾向に影響する要因の検討、自己愛傾向がクラシックバレエへの満足度や日常的な幸福感に与える影響について検討することを目的とした。

II. 研究方法

バレエ実施者を対象に、2019年12月5日～8日でWeb調査を実施した。全回答数188件、有効回答数124件、分析対象となった124名（男性14名、女性110名）は、平均年齢26.5歳、SD=9.67であった。調査項目は基本属性、自己愛傾向を測定する30項目、バレエに関する項目、バレエ満足度や幸福感に関する項目、計45項目とした。自己愛傾向を測定する尺度として、小西らの全35項目からなる自己愛人格傾向尺度(NPI-35)を参考とし、バレエ実施者の行動や場面に合わせた項目を新たに作成した。回答は、5件法で求めた。

III. 結果

1. バレエダンサー用自己愛傾向尺度の作成

全30項目に対して、探索的因子分析（最尤法・Promax回転）を行い、26項目6因子構造を得た。

第1因子を「誇大感」、第2因子を「身体賞賛」、第3因子を「個性」、第4因子を「自己陶醉」、第5因子を「注目欲求」、第6因子は「自己顕示」と命名した。尺度全体の α 係数が.94であること、累積寄与率が57.76%であることから十分な内的整合性が認められたと言える。度は自己愛人格傾向を構成する各側面と捉えた。

2. 自己愛に影響を与える要因

1週間の稽古回数を3つの群(0～3回:低群、4～5回:中群、6回以上:高群)に分け、自己愛傾向の違いについて、有意水準5%で対応のない1要因分散分析を行った。その結果、誇大感、自己陶醉、注目欲求において、群間に有意な差が見られた(図1)。誇大感($F=9.39$, $df=2$, $p<.05$)。自己陶醉($F=19.1$, $df=2$, $p<.05$)。注目欲求($F=4.69$, $df=2$, $p<.05$)。

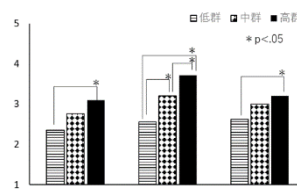


図1. 1 要因分散分析結果

3. 自己愛がバレエ満足度及び幸福感に与える影響

自己愛がバレエ満足度、幸福感に与える影響は、職業によって異なることが明らかとなった。

プロダンサーにおいて、誇大感、注目欲求、自己顕示からバレエ満足度への直接効果が有意であった(図2)。プロダンサーは他人より優れている感覚を得ていることによって、バレエ満足度が高くなることが明らかとなった。

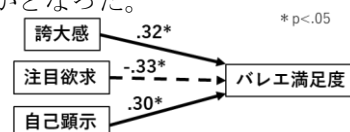


図2. プロダンサー: バレエ満足度への直接効果

バレエ教師において、バレエ満足度から幸福感への直接効果が有意であった(図3)。バレエに満足していることで、生活一般の幸福感も高くなっていることが明らかとなった。

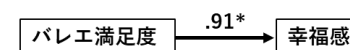


図3. バレエ教師: 幸福感への直接効果

IV. 考察

1. バレエダンサー用自己愛傾向尺度の作成

各因子に関して、参考としたNPI-35と同様な項目が抽出された。また、本尺度の項目はバレエの特性を捉えていることから、バレエダンサーの自己愛傾向を測定する尺度として妥当であると言える。

2. 自己愛に影響を与える要因

稽古回数が多い人ほど自己愛傾向が高いという結果から、稽古回数が多い人の中にプロダンサーやバレエ教師など、一般よりバレエの能力が高い人が含まれていることが考えられる。バレエ能力が高いと、他人よりも優れている感覚や自らの能力に過信する感覚を持ちやすく、より誇大感や注目欲求が強くなることが示唆された。

3. 自己愛がバレエ満足度及び幸福感に与える影響

自己愛がバレエ満足度や幸福感に与える影響が職業によって異なるという結果から、バレエに関わる立場によってバレエに対して重要視する事柄も異なることが示唆された。プロではより良い配役を得たいという欲求などがあることから、自己顕示ができた時、すなわち自らを良くアピールできた時にバレエ満足度が高くなることが考えられる。

V. 今後の課題・展望

本研究ではWeb調査を実施したが、クラシックバレエ実施者の母数自体が少数であるため、多くのデータを収集することが困難であった。データ収集方法を見直した上、さらにデータを増やし、今回作成した尺度の信頼性・妥当性を再度検討したい。